

令和6年度 千葉県における「すずき東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（１）千葉県におけるスズキの漁業実態

千葉県におけるスズキは、東京湾内湾での漁獲がほとんどを占めており、海面漁業生産統計によると千葉県の漁獲量は全国トップとなっている。主な漁法はまき網や小型機船底びき網漁業となっている。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

①目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

千葉県沿岸水産資源の資源評価において判断される中位以上の資源水準（小型機船底びき網漁業の CPUE（単位努力量あたり漁獲量）で1 網当たり 3.8 キログラムを上回る資源水準）を維持する。

②該当する資源管理協定

「すずき東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、7 漁協所属の約 80 名が、スズキを対象とした、それぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、3 協定となっている。

協定	備考	協定	備考	協定	備考	協定	備考
市川市		金田	◎	富津		天羽	
船橋市	◎	新木更津市	◎	新富津			

◎ 本検証の対象協定

③自主的取組

まき網漁業では、休漁期間や休漁日を設ける取組を行っている。東京湾内湾の小型機船底びき網漁業では、関係漁業者により、内湾底びき網連絡協議会が組織されており、資源管理の取組は当該協議会で協議決定の上、実践している。

また、漁業者と千葉県水産総合研究センターとの共同調査による資源状況結果等に合わせ、同海域で操業する神奈川県漁業者とも連携し、資源管理の取組を実施している。（取組一覧は、下表のとおり）

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考（該当する協定）
まき網漁業	◎ 休漁期間の設定	中型まき網 2 月、小型まき網 4 月	船橋市
	◎ 休漁日の設定	週 1 回	船橋市
小型機船底びき網漁業	◎休漁日の設定	①定期休漁（火・土曜日） ②定期休漁（火・土曜日、祝日前日）※ただし、各市場の臨時開場日前日は出漁することが出来る。	①船橋市、新木更津市 ②金田
	◎操業時間の制限、漁具の制限等	漁具の制限：桁幅の制限 操業時間：内湾底びき網連絡協議会で資源状況等に応じて協議決定	全協定

◎ 協定に記載されている取組

上記取組の他、資源状況等に合わせて内湾底びき網連絡協議会で協議決定した年末年始お盆期間の休漁や、まき網漁業では 25 センチメートル以下の未成魚を漁獲した場合に再放流するといった自主的な取組を実施している。

（３）資源管理の効果の検証

本県におけるスズキ漁獲量は、1990 年代後半に著しく増加し、2006 年に過去最高の 2,886 トンとなった後、減少傾向にある（図 1）。県の令和 6 年(2024)度資源評価では、ここ数年は CPUE の減少が続いているが、中位水準を維持している（図 2）。協定参加者による検証（以下、「自己点検」という。）では、漁獲量は 2 協定で減少、1 協定で増加、CPUE は 2 協定で維持、1 協定で減少と判断している。また、魚価（単価）は各協定でそれぞれ上昇、維持、低下と判断しており、全ての項目で異なっていた。

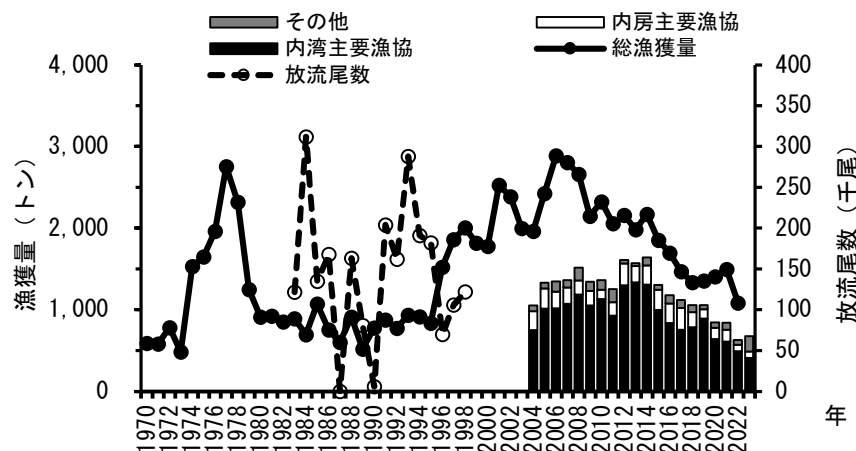


図 1 スズキ類漁獲量と放流尾数の経年変化

（千葉県調べ）

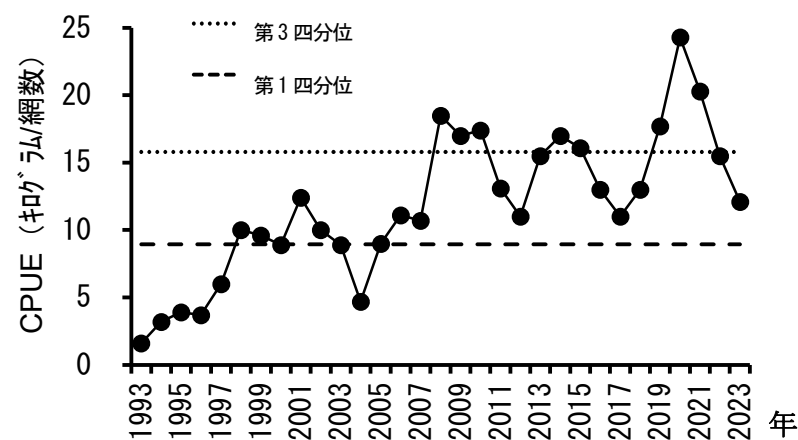


図 2 小型機船底びき網の標本漁船によるスズキの 1 網当たり漁獲量

キログラム/網数：CPUE) の経年変化（千葉県調べ）

（４）効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

スズキの資源動向について、自己点検では様々な結果だが、取組の効果があるとしている協定もあることから、漁業者がこれまで実施してきた資源管理の取組が資源維持の一助になっていると考えられる。また資源動向は、環境の悪化によるものと考えている協定もあり、水産総合研究センターの研究報告（石井ら 2005）によれば、スズキは貧酸素水塊を避けるように分布することがあるとされ、貧酸素水塊が漁場形成位置に大きな影響を及ぼしている可能性が考えられる。さらに、小型底びき網漁業の CPUE は増減がやや大きい中でも概ね一定レベルで維持されている一方、県内の漁獲量は、近年減少傾向が続いている。このため、引き続き現在の取組を継続するとともに、海洋環境の変化や資源の動向に注視しながら状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。